

の参加者が米国および海外からあり、当初は米国フィラデルフィアで開催予定であった。しかし、今回は新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオンラインでの開催となった。期間は2020年11月4日から7日（現地時間）であり、大会テーマは“Turning 75: Why Age Matters”であった。ストーリーミングによるシンポジウム、オンディマンドによる論文やポスター報告発表セッションなどが設けられ、参加者は関心のあるセッションにアクセスして参加する方法が採られた。なお、参加は同学会の会員以外でも可能であり、オンラインで参加申し込み、ID等の設定、参加料の支払いなどの手続きを行うことで、大会事務局からurlなどの情報がメールで送られてきた。

時差の関係でオンディマンド報告、ポスターセッションを主に参加したが、老年学に関する幅広い分野から報告が行われ、筆者は介護サービス、介護者に関するおよそ30近くの報告にアクセスした。報告は米国だけでなく、わが国を含む諸外国からもあり、台湾からの報告もあった。さらに、AARP（米国の高齢者団体）などの協賛団体によるオンラインでの情報発信もあり、こちらでも貴重な情報を入手できた。

海外での学会参加は、その場所が醸し出す雰囲気の中で議論を行うことで、学術的な知見を積み、研究ネットワークを充実される貴重な機会である。よって、参集での開催、参加が最も望ましい。一方で、日程と用務の関係で断念する場合も多く、オンライン開催はこうした問題を解消できる。ダウンロードで来た報告資料をじっくりと検討できる。しかし、オンラインでも同時に参加できるセッションに限られること、時差の問題など、オンライン参加特有の課題も感じた。

なお、2021年の大会は米国アリゾナ州フェニックスで11月10日から14日に開催予定である。

（小島克久 記）

第25回 静岡健康・長寿学術フォーラム

2020年11月13日（金）～14日（土）に、静岡県、静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学の4団体が共催する静岡健康・長寿学術フォーラムが、静岡県男女共同参画センター「あざれあ」とオンラインとのハイブリッド形式で開催された。第25回目となる今回のテーマは「令和時代の健康・長寿」で、社会健康医学、工学・光産業、人材に関する幅広い分野のセッションが行われた。

そのうち学術セッションIII「人口減少社会と健康・長寿」では、高畑幸 静岡県立大学国際関係学部教授の座長の元、筆者が「日本・アジアの長寿化と介護需要の増加」と題する報告を、静岡県立大学短期大学部の天野ゆかり講師が「静岡県における外国人介護人材の受け入れと介護福祉士資格取得に向けた支援」と題する報告を行った。高齢化に応じた介護ケア、介護人材の需要増加に、外国人の活用も含めどのように対応するか、マクロ・ミクロの観点から議論された。

静岡県では、官民学一体で「ふじのくにEPAネットワーク」を構築し、外国人介護人材の受け入れを円滑化させている。新型コロナウイルス感染症により新規の受け入れは停滞しているが、すでに日本にいる人材がどう活躍できるのか、またいずれは帰る人がいても好循環することが重要、とまとめられた。

（林 玲子 記）

日本人口学会第72回大会

日本人口学会第72回大会は、当初2020年6月に開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大に対応するためオンライン開催に変更され、2020年11月14日（土）～11月15日（日）に埼玉県立大学